

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	桐蔭横浜大学
設置者名	学校法人 桐蔭学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計			
法学部	法律学科	夜・通信	0	137	0	137	13		
医用工学部	臨床工学科	夜・通信		6		131	137	13	
	生命医工学科	夜・通信				44	50	13	
スポーツ健康政策学部	スポーツ教育学科	夜・通信		183		42	225	13	
	スポーツテクノロジー学科	夜・通信				24	217	13	
	スポーツ健康政策学科	夜・通信				38	221	13	
(備考)									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

http://toin.ac.jp/univ/wp-content/themes/univ/pdf/practical_experience_2020.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	桐蔭横浜大学
設置者名	学校法人桐蔭学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://toin.ac.jp/info/school/leaders/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	弁護士	2018.6.1～ 2020.5.31	法人業務全体の顧問
非常勤	医師	2018.6.1～ 2020.5.31	保護者や教職員のメンタル面の取組等への企画
非常勤	弁護士	2018.6.1～ 2020.5.31	法務面のアドバイス
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	桐蔭横浜大学
設置者名	学校法人桐蔭学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

すべての学部において、以下のとおり、授業計画(シラバス)を作成し公表している。

(1) 授業計画(シラバス)の作成過程

授業計画(シラバス)の作成に際しては、まず「授業計画(シラバス)作成マニュアル」(冊子)を全教員に配付し、記載事項、前年度との違いなどを周知徹底している。それを踏まえ、教員は学内者専用サイト(桐蔭横浜大学スマートキャンパス)を通じて、以下の項目等について作成している。

- ・本科目のねらい(授業の内容及び方法)
- ・授業における学修の到達目標及び成績評価の方法・基準
- ・準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間
- ・卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連について
- ・教科書、参考文献等
- ・課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法
- ・履修学生への要望
- ・講義の全体像がつかめるよう 15 回分の具体的な学習内容の記載

(2) 授業計画の作成・公表時期

毎年 11 月末をめどに、翌年の 1 月半ばを提出期限とし、次年度のシラバスの作成依頼を行っている。提出後の 1 月末から 2 月半ばに、第三者による点検作業(シラバスチェック)を行い、修正が必要な部分については、3 月半ばまでに各教員が修正を行っている。公表は、3 月末から学生が履修登録を行う学内者専用サイト(桐蔭横浜大学スマートキャンパス)で行い、4 月にはホームページで学外にも公表している。

授業計画書の公表方法	本学ホームページ http://syllabus.cc.toin.ac.jp/jyugyoukeikaku/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>すべての学部において、授業計画（シラバス）で客観的な成績評価の方法を明示するよう、全教員に求めている。また学修成果の評価は、機械的な作業に陥ることのないよう、科目の性格、授業の進行スタイル等との関係を考慮して適正に行うよう全教員に要望している。これらは、主としてシラバスチェックを通じて徹底し、また成績分布調査などによっても点検している。</p>	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>すべての学部において、成績評価についてあらかじめ設定した算出方法により、GPAの数値を算出し客観的な指標を設定している。</p> <p>(1) 成績評価の方法</p> <p>成績の採点は100点満点で行い、成績評価は以下のとおり5段階で評価している。 S: 90点以上、A: 80点以上90点未満、B: 70点以上80点未満、C: 60点以上70点未満、D: 60点未満（不合格）</p> <p>(2) GPA（グレード・ポイント・アベレージ）値による評価</p> <p>各成績評価の基準値（GP）は、S=4、A=3、B=2、C=1、D=0として、GPAの算出は、科目ごとにその単位数を乗じて得られた数値（GP×単位数）の総和を、総履修登録単位数で除したものである。</p> <p>(3) 成績分布状況の把握</p> <p>各学部のGPA成績の分布状況の資料等を作成し、学部ごとの成績分布状況を把握している。また、各年次の学期末の成績評価（単位数等）によって、警告基準及び注意基準を設定し、対象学生と三者面談を実施している。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	本学ホームページ（PDF P34-35 GPA値による評価） http://toin.ac.jp/univ/wp-content/themes/univ/pdf/faclaw_registration.pdf

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>(1) 卒業の認定に関する方針の具体的内容</p> <p>本学は桐蔭学園の5つの建学の精神に基づきつつ、「個の充実」「実務家養成」「開かれた大学」「国際交流」の4つの柱を大学開設以来掲げてきた。近年はこれを「実学及びスポーツと教員養成」「文化教育」「新たな知の開拓」「グローバル化対応」とも置いている。その具体的内容は各学部特性により異なる部分があるとしても、①卒業後の社会・職業生活に応用可能な知見の修得、②価値判断の基礎となり、長い人生の道標となりうる教養、そして人格の形成、③グローバル化してゆく世界にたいする確かな目、これらを身につけるといふ点では共通性がある。よって、この3点を学士号授与の基礎的条件とする。そしてこれを土台として各学部が提供する具体的な知見を修得してもらう。これにより、自立的に自由な発想と柔軟な判断ができ、他者や他文化と協調・協同しながら、倫理観を持って目標の実現のために人間力豊かなリーダーシップを発揮するとともに、多様な知識と技術を用いて社会の事象を批判的に分析し、問題の発見と解決をはかりながら、持続可能な地球社会の構築に貢献できる人材を輩出できると確信している。</p> <p>なお、各学部の卒業の認定に関する方針についても、大学ホームページ等で公表している。</p> <p>(2) 卒業の認定に関する方針の適切な実施状況</p> <p>各学部の卒業認定に関する方針や修得単位数等の状況を踏まえ、各教授会で最終的な卒業判定を行い、適切に卒業を認定している。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>大学ホームページ http://toin.ac.jp/univ/overview/policy/</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	桐蔭横浜大学
設置者名	学校法人 桐蔭学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://toin.ac.jp/info/school/finance/
収支計算書又は損益計算書	http://toin.ac.jp/info/school/finance/
財産目録	http://toin.ac.jp/info/school/finance/
事業報告書	http://toin.ac.jp/info/school/finance/
監事による監査報告(書)	http://toin.ac.jp/info/school/finance/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <http://toin.ac.jp/univ/intro/check/>

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <http://toin.ac.jp/univ/intro/check/evaluation2018/>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 法学部
教育研究上の目的 (公表方法 : http://toin.ac.jp/univ/overview/purpose/)
(概要) 基本的な法律制度の理解を基礎とし、法理論及び法政策を教授し、もって法的思考能力を備えた人材を養成する。 (法律学科) 現代社会における諸問題に即して法的思考能力をかん養し、倫理性と人間力を備えた人材を養成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : http://toin.ac.jp/faclaw/fl_top/)
(概要) 大学で法学士号を取得するとは、幅広い教養と法学専門知識を身に着け、良き市民となることである。法的な考え方を身に着け、トラブルを解決したり、相手方と交渉したりする能力を身に着ける。批判精神を持った市民として、社会に貢献できる資質を身に着ける。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : http://toin.ac.jp/faclaw/fl_top/)
(概要) ・多様な学生の進路に対応した授業カリキュラムを整える。 ・そのために、1年から4年まで極めて少人数のゼミを配置し、学生にとって教員が身近に感じられるようにする。 ・最も多人数の警察官や消防官を目指すコースだけでなく、地方公務員、さらには、法律専門家をを目指す学生の指導体制を整える。 ・一般企業に就職する者、自営業を営む者にとって大切な法的リテラシーを身に着けさせる。 ・スポーツに力を注ぐ学生に対しても、教員免許が取れるようにする。 ・海外留学の活用、外国語の鍛錬を通じて、グローバル人材を育成する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : http://toin.ac.jp/faclaw/fl_top/)
(概要) ・現代社会の様々な問題について日頃から強い関心を抱き、その解決の道を探求したい人。 ・偏見から自由で柔軟な思考と、物事を筋道立てて考える論理的な思考ができる人、またはできるようになりたいと望む人。 ・自分の意見を口頭や文章で説得的に表現することができる人、またはできるようになりたいと望む人。

学部等名 医用工学部
教育研究上の目的 (公表方法 : http://toin.ac.jp/univ/overview/purpose/)
<p>(概要)</p> <p>医学、環境、情報、電子、生物医療、福祉、バイオ、遺伝子など様々な学問領域を有機的に連携させた教育を行い、最先端の工学技術を駆使して社会の発展に貢献する人材を養成する。</p> <p>(生命医工学科)</p> <p>生命工学の技術に基づき、医用材料及び再生工学技術の発展に貢献できる人材を養成する。</p> <p>(臨床工学科)</p> <p>最新の生命維持管理装置の知識を有し、その操作・管理を円滑に行える臨床工学技士の養成と高度な医療技術を身に付けた医用技術者を養成する。</p>
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : http://toin.ac.jp/facbme/fbe_top/)
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医用工学部の教育課程に定められた卒業要件単位を取得し、卒業研究の論文発表を行い、以下に示される医用工学部の教育方針に鑑みて、有意義な成果を挙げたことを卒業判定会議で認められた者に、学士(工学)が授与されます。 ・医用工学者に求められる健全な人間性をそなえ、社会連帯を重んじ、自分の職務に責任を感じ、真実を偽らず、個人の尊厳を重んじる人。 ・人と共感・協調し、自分を表現する能力を持ち、共同の目的達成に貢献し、指導的立場に立つことのできる人。 ・自立的に学び、自分の専門分野および進路を積極的に開拓できる人。 ・国際的なコミュニケーション能力の涵養に積極的に努め、国際的地平で医用工学の研究開発に従事できる人。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : http://toin.ac.jp/facbme/fbe_top/)
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医用工学部では、人の健康を保ち、社会を疲弊から解放する医用工学諸分野の研究者・技術者、ならびに人の生命を守る医療従事者を養成するため、以下に示した方針で教育課程を編成しています。 ・入学時に基礎学力確認試験を行い、学生一人ひとりの基礎学力達成度に応じた能力別の基礎教育を行います。基礎学力達成を目的とする「修学必須科目」は重要な卒業要件です。 ・自立的学習支援プログラムによって、高等学校理科各科目の補習が可能です。また、このプログラムによって実験・演習科目の課題達成の援助も受けられます。 ・専門科目では実験が重視されます。実験結果のレポートや実験への取り組む姿勢を鑑みて評価を行います。実験科目も重要な卒業要件の一つです。 ・三年次後期の終了後、本学部の教育課程の達成度が評価され、卒業研究および病院実習の実施に関する可否が審査されます。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : http://toin.ac.jp/facbme/fbe_top/)
<p>(概要) (生命医工学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命現象に強い関心を持ち、化学や生物学を用いてその解明を積極的に遂行しようとする志向を有すると同時に、そこから得られた新たな知見を基に、医療技術の発展に貢献したいと考えている人。 ・臨床検査技師(国家資格)として医療機関や臨床検査センター、研究教育機関で従事することを強く希求する人。 <p>(臨床工学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学と工学の両学に興味があり、それらを修学するための自己学習・自己啓発を積極的に行う意志を有し、新たな医療機器の研究開発および医療技術の発展に貢献したいと考えている人。 ・臨床工学技士(国家資格)として医療機関や医療機器メーカー、研究教育機関などの企業で従事することを強く希求する人。

学部等名	スポーツ健康政策学部
教育研究上の目的（公表方法： http://toin.ac.jp/univ/overview/purpose/ ）	
<p>（概要）</p> <p>我が国のスポーツ、文化そして教育のみならず、関連するすべてについて健全な発展を推進するという理念を掲げ、現代社会が抱える諸問題を広い概念のスポーツ文化を通して解決することができる人材の養成を目的とする。</p> <p>（スポーツ教育学科）</p> <p>複雑化する現代社会の要請にこたえることができ、かつ、正確で柔軟な指導法を身に付けた教育職員や、更には生涯学習時代におけるスポーツの指導者等の人材を養成することを目的とする。</p> <p>（スポーツテクノロジー学科）</p> <p>スポーツを支える指導者や、スポーツエンジニアの育成を目指し、スポーツ科学及び工学、そして関連する領域の専門的な知識とともに、科学的・総合的な見識と技能等を持つ人材を養成することを目的とする。</p> <p>（スポーツ健康政策学科）</p> <p>文化やスポーツ更には健康に関わる政策立案に必要な柔軟な発想と、豊富な知識を持った人材や、スポーツや文化芸能などを使いこなすことができ、次世代のスポーツ文化交流の担い手等の人材を養成することを目的とする。</p>	
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://toin.ac.jp/faccsp/fcsp_top/ ）	
<p>（概要）</p> <p>スポーツ健康政策学部では、からだの多様な可能性について教育・健康・科学技術・国際交流・福祉等のさまざまな視点から学び、現代社会が抱える課題に対応できる人材を育成する。具体的には以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを中心に捉えた新しい発想での教育学を学んだ人。 ・「からだ」と「科学」を突き詰めて新しい可能性を導き出すことのできた人。 ・地域に貢献し社会のニーズに応える新しい価値を創造できた人。 	
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://toin.ac.jp/faccsp/fcsp_top/ ）	
<p>（概要）</p> <p>スポーツ指導者やスポーツ・健康づくり活動を支援できる人材、さらには文化やスポーツ、健康に係わるさまざまなプログラムを企画・実施・運営できる人材などを養成することを目的とし、スポーツや健康、体に関する専門的な知識・技能のみならず、社会人として各界で活躍する際に必要な幅広い知識や教養を身につけることができるようにするという基本方針に基づき、教育課程を編成し、実施する。多様な専門科目のほか、1・2年次には「スポーツ文化の担い手」として活躍するとともに、専門的な科目の学びにスムーズに入るための基礎力アップをめざす学部基礎セミナーや情報リテラシー、英語コミュニケーションなどの必須科目および教養豊かな社会人育成のための総合科目を配置し、3・4年次には、自分の問題意識に基づいた課題に取り組み、今の時点での答えを求めていく専門演習や卒業研究を必須科目として配置している。</p>	
入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://toin.ac.jp/faccsp/fcsp_top/ ）	
<p>（概要）（スポーツ教育学科）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の抱える教育問題に関心があり、スポーツ文化でその問題解決することを目的とする人。 ・全ての人々に、スポーツの楽しさを伝えたい人。 ・小学校、中学校、高等学校の教員や、生涯学習社会における指導者となることを強く希求する人。 <p>（スポーツテクノロジー学科）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ科学・医学・工学を融合させ、あらゆる競技や身体表現の世界、健康づくりといった場面で、科学的な分析で貢献できる、幅広い指導者を目指す人。 ・最新のトレーニング理論や、データ分析の方法だけではなく、指導技術や洞察力を持ったスポーツトレーナーを目指す人。 	

・最先端のテクノロジーを駆使し、スポーツ映像やデータ分析の活用で競技力向上など広くスポーツ界発展を支えるアナリストを目指す人。

(スポーツ健康政策学科)

・公務員やNPO・NGOのスタッフとして、スポーツ文化で街づくりや地域振興、国際貢献をしてみたい人。

・文化やスポーツを手がかりに、すべての人が健康で楽しく生きられる社会をデザインしたい人。

・からだを動かす楽しさや大切さを、ジャーナリズム等を通して表現し、伝え、広げていきたい人。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://toin.ac.jp/univ/publish/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
法学部	—	15人	5人	3人	2人	0人	25人
医用工学部	—	15人	1人	8人	1人	0人	25人
スポーツ健康政策部	—	18人	9人	7人	1人	0人	35人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		128人					128人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： http://toin.ac.jp/univ/faculty/professor/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
2019度については、以下のとおりFDを実施した。							
（1）授業評価アンケートに対する自己評価 授業評価アンケートの結果に対して指定書式によるコメントを作成し、自己点検評価委員会（学部）に提出した。							
（2）研究授業 研究授業の対象は、講義科目、実技科目、演習科目を対象とし、各学科とも前・後期1回ずつ実施した。授業終了後に研究会を設け意見交換を実施した。							
（3）国家試験結果の現状報告 国家試験の内容及び結果の推移等について、報告及び意見交換を実施した。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
法学部	180人	220人	122%	740人	842人	114%	10人	1人
医用工学部	80人	90人	113%	320人	344人	108%	0人	0人
スポーツ健康 政策学部	270人	308人	114%	1,050人	1,240人	118%	若干名	0人
合計	530人	618人	116%	2,110人	2,426人	113%	10人	1人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
法学部	173人 (100%)	3人 (2%)	142人 (82%)	28人 (16%)
医用工学部	71人 (100%)	11人 (15%)	38人 (54%)	22人 (31%)
スポーツ健康 政策学部	264人 (100%)	3人 (1%)	224人 (85%)	37人 (14%)
合計	508人 (100%)	17人 (3%)	404人 (80%)	87人 (17%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
法学部	205人 (100%)	160人 (78.0%)	14人 (6.8%)	31人 (15.1%)	0人 (0%)
医用工学部	81人 (100%)	62人 (76.5%)	9人 (11.1%)	10人 (12.3%)	0人 (0%)
スポーツ健康 政策学部	304人 (100%)	247人 (81.3%)	26人 (8.6%)	31人 (10.2%)	0人 (0%)
合計	590人 (100%)	469人 (79.5%)	49人 (8.3%)	72人 (12.2%)	0人 (0%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>授業計画(シラバス)の作成に際しては、まず「授業計画(シラバス)作成マニュアル」(冊子)を全教員に配付し、記載事項、前年度との違いなどを周知徹底している。それを踏まえ、教員は学内者専用サイト(桐蔭横浜大学スマートキャンパス)を通じて、以下の項目について記載している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目のねらい(授業の内容及び方法) ・授業における学修の到達目標及び成績評価の方法・基準 ・準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間 ・卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連について ・教科書、参考文献等 ・課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ・履修学生への要望 ・講義の全体像がつかめるよう15回分の具体的な学習内容の記載

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
すべての学部において、授業計画（シラバス）で客観的な成績評価の方法を明示するよう、全教員に求めている。また学修成果の評価は、機械的な作業に陥ることのないよう、科目の性格、授業の進行スタイル等との関係を考慮して適正に行うよう全教員に要望している。これらは、主としてシラバスチェックを通じて徹底し、また成績分布調査などによっても点検している。				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
法学部	法律学科	124 単位	有・無	24 単位
医用工学部	臨床工学科	126 単位	有・無	24 単位
	生命医工学科	126 単位	有・無	24 単位
スポーツ健康政策学部	スポーツ教育学科	124 単位	有・無	24 単位
	スポーツテクノロジー学科	124 単位	有・無	24 単位
	スポーツ健康政策学科	124 単位	有・無	24 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：本学ホームページ (P73 法学部早期卒業の条件) http://toin.ac.jp/univ/wp-content/themes/univ/pdf/faculty_registration.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		http://toin.ac.jp/univ/wp-content/themes/univ/pdf/learning_behavior_2019.pdf		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： http://toin.ac.jp/univ/facility/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	年次	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
法学部	法律学科	1	720,000 円	200,000 円	265,260 円	施設設備費等
		2-4	720,000 円	0 円	260,600 円	施設設備費等
医用工学部	生命医工学科 (国家試験受験コース)	1	920,000 円	200,000 円	496,600 円	施設設備費等
		2-4	920,000 円	0 円	478,600 円	実験実習費用
	臨床工学科 (生命医工コース)	1	920,000 円	200,000 円	496,600 円	施設設備費等
		2-4	920,000 円	0 円	678,600 円	実験実習費用
スポーツ健康政策学部	3 学科共通	1	800,000 円	200,000 円	423,270 円	施設設備費等
		2-4	800,000 円	0 円	388,400 円	施設設備費等

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 修学支援については、学位授与の条件をすべての学生が満たすことができるよう入学から卒業まで個別の対応を行っている。具体的には、学年ごとに修得すべき単位を明示し、オリエンテーションにおいて履修指導を行い、目標単位を履修できない学生については本人及び保護者と交えた相談階を開いている。 そのほか、課外の学習支援として学生が自発的に教員・大学院生に学習指導を受ける「インディ・カフェ」（工学系学部の学習支援組織の名称）、「学生ラウンジ・学習ラウンジ」「C-PAC」（スポーツ系の学習支援組織の名称）（大学中央棟）、「ピアツァ M」（法学系の学習支援組織の名称）（法学部棟）を実施している。 また、オフィス・アワーを設定し、学生が気軽に相談できるような体制を整えている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 進路選択に係る支援については、各学部の特徴を踏まえたキャリア関連講座やセミナーを実施し、学生一人ひとりを入学後から4年次まで細やかに支援している。 具体的には、以下のような取組みをしている。 ・学部別キャリア講座の開設・書類添削指導の実施・卒業生や業界の方を招へいしての講演会を開催・業界研究セミナーの開催・インターンシップガイダンスの実施・グループディスカッションや面接対策を実施・各学部別キャリアカウンセラーによる就職相談を実施。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生の心身の健康等に関しての支援として、学生のケガや体調不良は大学保健室で対応し、当該学生の状況により、近隣病院に学生部職員が同行し対応している。 心の支援については、学園内にカウンセリングルームが設置されており、適宜、臨床心理士と相談できる体制を構築している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<http://ccmg.cc.toin.ac.jp/univ/gakujutsu/>